

林業の今、そしてこれから

林業作業の安全

林業は、作業する場所が山中で、安全が確保されている作業場ではありません。

作業環境としては建設業より過酷な環境で、事故が多い業種です。

○平成 26 年度	死傷者数	1,611	死亡者数	42
○平成 27 年度	死傷者数	1,406	死亡者数	35

因みに建設業の死傷者数は、次の通りです。

○平成 26 年度	死傷者数	17,184	死亡者数	377
-----------	------	---------------	------	------------

人数だけみると建設業に比べ、少数に感じます。しかしこれを 1,000 人当たりの死亡者数（年千人率）で比較してみると、

林業 26.9 建設業 5.0 全産業 2.3

圧倒的に林業が多く、従業者が少ない中でも、事故の多さは尋常ではありません。

だからこそ危険要因の洗い出し（リスクアセスメント）が必要不可欠になっています。

林業の現場は、人里離れた山間部で作業することが多く、携帯電話の電波が入らないケースもあります。だからこそ、作業員間の連絡方法を再確認し合うのが必要！！

災害発生に備えての確認事項

- ① 作業中の作業員間の連絡方法
- ② 携帯電話等の使用可能位置
- ③ 山土場からの移送方法
- ④ 救急用具や材料の保管
- ⑤ 事務所、消防機関等救急期間等の連絡方法
- ⑥ 緊急時における連絡等の拠点となる作業場所と、連絡方法

※**人命救助が一番！**少しでも対応出来るように、必要知識を持つことが大事！

明るい服を着用したり、合図（笛・鈴）を持参する事も早期発見に役立つ方法！

労働災害の防ぎ方と対処方

発行所

(有) 依田林業
塩山事務所
総務部

今月の一言
慣れは怖いぞ！
基本を大切に！

○チェーンソーでの伐倒作業での立ち入り禁止区域の拡大

伐倒木の樹高の 1.5 倍以上としていたものを、2 倍以上とする。
傾斜地は、さらに倍になる。

○アドレナリンの自己注射器の携帯について義務化

抗体検査結果が陽性の者は、自己注射器の携帯を義務化とする。

○チェーンソー防護衣の着用を義務化

多発する切創災害のため、必ず防護衣を着用しなければいけない。

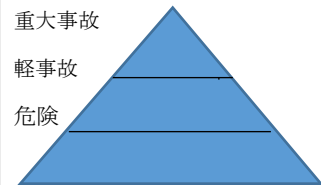
○ロープ高所作業での危険防止

安全帯の取付けの確認をしっかりと行うこと。

メインロープとライフラインの 2 つを、強固な支持物に緊結すること。

新たに炎防規定と義務化

ハインリッヒの法則



ヒヤリハット1日あたり

平均 軽傷害 重傷害

13個 **1.2**個 **1**年に**1**回

～するとき～したので～になる

こんな形で、危険要因を洗い出し、解消していこう！

ヒヤリハット☆リスクアセスメント